

## 旧ふじのくにエネルギー総合戦略（平成 28 年度策定） 進捗評価書

### 1 旧エネルギー総合戦略の目標（戦略 P37）に対する進捗状況

項 目	2014 年度等 （基準値）	2020 年度			2021 年度 （目標）
		現状値	期待値	評価区分	
地産エネルギー導入率 ※ <sub>1</sub>	14% (2015 年度)	<b>21.3%</b>	21.6%	<b>B</b>	23%
地産エネルギーによる エネルギー自立化率※ <sub>2</sub>	1/4 (2012 年度)	<b>55.7%</b>	51.1%	<b>A</b>	52%
新エネルギー等導入量 (原油換算※ <sub>3</sub> )	80 万 k1 (2014 年度)	<b>126.4 万 k1</b>	148.3 万 k1	<b>C</b>	159.1 万 k1
太陽光発電の導入量	96 万 kW (2014 年度)	<b>226.3 万 kW</b>	198.4 万 kW	<b>A</b>	210 万 kW
住宅用太陽光発電 普及率※ <sub>4</sub>	5.0% (2013 年度)	<b>7.3%</b> (2018 年度)	8.8%	—	10%
エネルギー消費比率※ <sub>5</sub>	100 (2012 年度)	<b>88</b>	86.4	<b>B</b>	85

※<sub>1</sub>：県内の最終エネルギー消費量に対する地産エネルギー（再生可能エネルギーに、需要地に近接した小規模火力発電、エネルギーの高度利用、水素エネルギー等を加えたもの）導入量の割合

※<sub>2</sub>：電力、熱・蒸気といった二次エネルギー消費量に対する地産エネルギー導入量の割合

※<sub>3</sub>：再生可能エネルギー導入によって削減される、火力発電所の化石燃料消費量の原油換算量

※<sub>4</sub>：数値は 5 年ごとに公表

※<sub>5</sub>：最終エネルギー消費量/GDP

### 【評価区分】

区分	数値目標
A	「現状値※ <sub>1</sub> 」が「期待値※ <sub>2</sub> 」の推移の+30%超え
B	「現状値」が「基準値」以上かつ「期待値」の推移の±30%の範囲内のもの
C	「現状値」が「基準値」以上かつ「期待値」の推移の-30%未満

※<sub>1</sub>…2020 年度末時点の実績値

※<sub>2</sub>…数値目標の「基準値」が、毎年ほぼ同程度の増加（又は減少）により、計画最終年度（2021 年度）に「目標値」を達成するものと想定し、想定どおりに進捗した場合の各年度において見込まれる数値を「期待値」とする。

## 2 エネルギー源別の目標（戦略 P39）に対する進捗状況

項目	2020 年度 実績値	評価 区分	進捗状況の評価	
太陽光発電	226.3 万kW	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年鈍化傾向が見られるが、年間 15 万 kW 増加し、着実に導入が進んでいる。</li> <li>・他の発電設備に比べて設備導入までに要する期間が短く、2030 年に向けた再生可能エネルギー導入量の拡大を牽引していくと期待されている。</li> <li>・一方で、地域の理解が得られない、例えば森林伐採を伴う大規模設備の導入拡大は難しいことから、住宅や事業所などへの導入促進が必要。</li> </ul>	
太陽熱利用	7.2 万 k1	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年は年間設置件数が減少している。</li> <li>・コストの低減や高効率化などの課題解決が必要。</li> </ul>	
風力発電	21.3 万kW	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020 年度に 1 件の新規導入があった。</li> <li>・今後も大規模な導入計画があり、地域との調整は必要であるが、導入の増加が見込まれる。</li> </ul>	
バイオマス エネルギー	発電	5.0 万kW	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模設備ではあるが、着実に導入が伸びている。</li> <li>・今後も導入計画があり、増加が見込まれる。</li> </ul>
	熱利用	5.3 万 k1	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015 年度に大型設備が導入されて以降、近年は停滞している。</li> </ul>
中小水力 発電	1.3 万kW	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の助成制度により小規模であるが設備の導入が進んでいる</li> <li>・利水による関係者との調整等に時間が掛かっている。</li> </ul>	
温泉熱発電	0.01 万kW	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度にバイナリー発電の導入があったが、その後の導入は進んでいない。</li> </ul>	
ガスコージェネ レーション	49.5 万kW (2018 年度 実績)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 年度頃までは毎年一定の設備容量の増加があったが、近年は新規導入案件がほとんどない。</li> <li>・(一財) コージェネレーション・エネルギー高度利用センターの統計方法が変更し、2019 年度から実績値の把握が困難な状況である。</li> </ul>	

### 3 地産エネルギー等の導入状況の推移

#### (1) 地産エネルギー導入率・エネルギー自立化率の推移

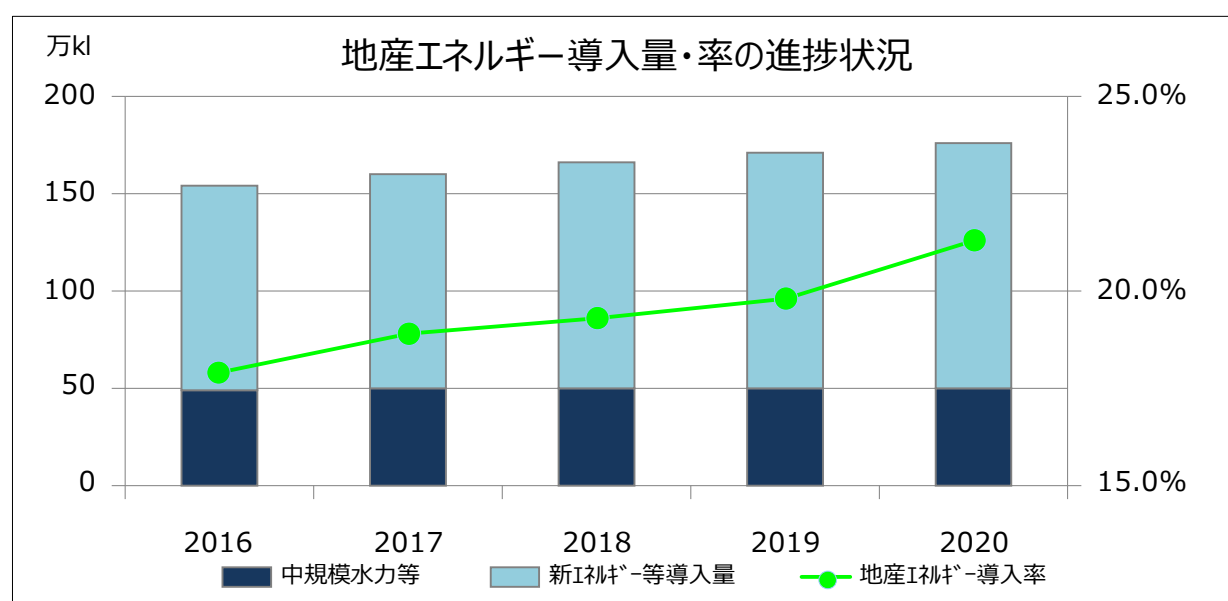
(原油換算：万 k1)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (目標)
地産エネルギー導入量 A=B+C	154.5	160.8	166.8	171.2	<b>176.6</b>	—
新エネルギー等導入量 B	105.1	110.5	116.5	121.0	<b>126.4</b>	—
中規模水力、小規模火力等 C	49.3	50.2	50.2	50.2	<b>50.2</b>	—
最終エネルギー消費量 D	861.2	849.4	870.9	※828.6	<b>※828.6</b>	—
うち電力、熱・蒸気 E	324.2	323.8	347.2	※317.1	<b>※317.1</b>	—
地産エネルギー導入率 A/D	17.9%	18.9%	19.1%	20.7%	<b>21.3%</b>	23%
エネルギー自立化率 A/E	47.7%	49.7%	48.0%	54.0%	<b>55.7%</b>	52%

※最終エネルギー消費量について、2019年度は速報値。2020年度は2019年度と同等とする。

新エネルギー等は、新エネルギーに、天然ガスコージェネレーション、燃料電池、ヒートポンプ及び海洋再生可能エネルギー等を加えたもの

注) 原油換算は、再生可能エネルギー導入によって削減される、火力発電所の化石燃料消費量の原油換算量



#### <進捗評価>

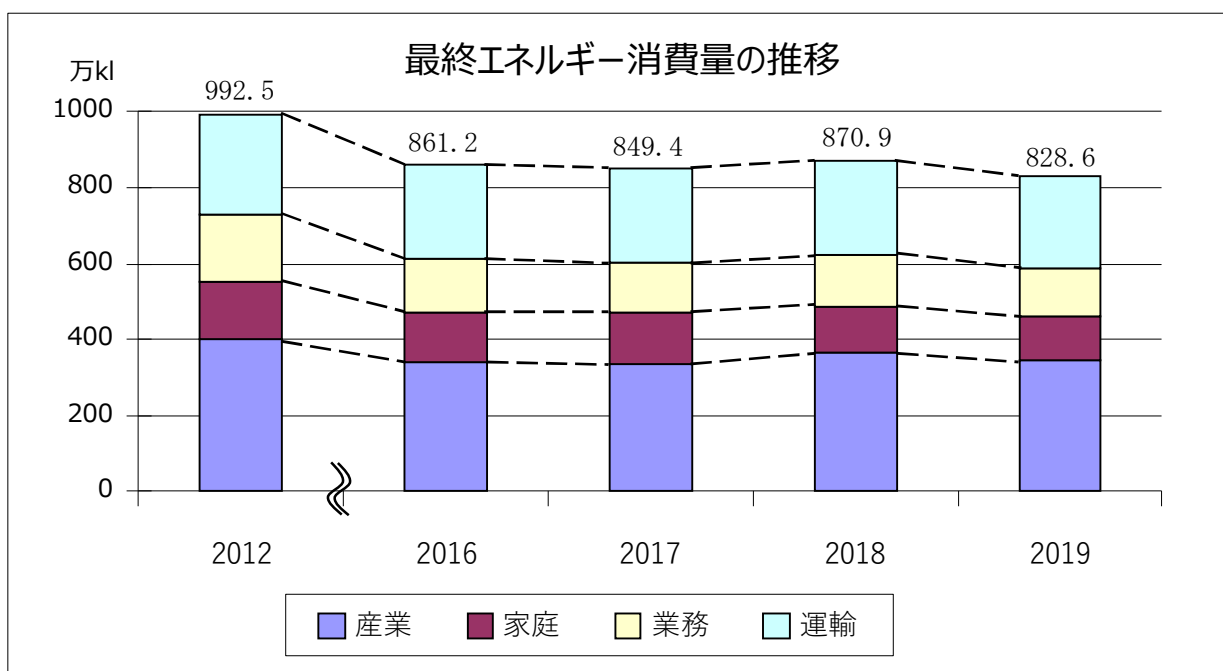
- ・地産エネルギー導入量は176.6万k1で、前年度(2019年度)から5.4万k1の増となった。また、地産エネルギー導入率は21.3%で、前年度から0.6ポイントの増であった。
- ・地産エネルギー導入率の上昇に伴い、エネルギー自立化率も上昇しており、速報値ではあるが、2021年度の目標(52%)も達成している。
- ・今後、地産エネルギー導入率を拡大させていくためには、地産エネルギー導入量のさらなる拡大のほか、エネルギーの効率的な利用、高効率機器への取替え等の省エネの取組の推進により、最終エネルギー消費量を着実に減少させる必要がある。

## (2) 県内の最終エネルギー消費量

(単位：原油換算万kl)

部門	2012年度 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度※	増減 (2019/2018)
産業	402.0	340.7	337.7	364.7	346.2	▲5.1%
民生家庭	149.3	133.2	132.0	124.6	116.3	▲6.7%
民生業務	179.5	137.8	131.8	136.4	126.2	▲7.5%
運輸	261.8	249.5	247.9	245.1	239.9	▲2.1%
合計	992.5	861.2	849.4	870.9	828.6	▲4.9%

※2019年度の最終エネルギー消費量は速報値



### <進捗評価>

- ・2019年度の県内の最終消費エネルギー量（速報値）は、全部門で削減が進んでいる。
- ・2018年度は前年度から増加しているものの、2012年度（基準値）と比較すると、2019年度は約16%の減少で、全体として減少傾向が続いている。
- ・その要因としては、省エネ意識の向上、取組の定着によるものと考えられる。

### (3) エネルギー消費比率の推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (目標)
最終エネルギー消費量(万kl) A	861.2	849.4	870.9	※ <sub>1</sub> 828.6	※ <sub>1</sub> 828.6	—
実質県内総生産(億円) B	163,905	166,852	170,509	※ <sub>2</sub> 167,972	※ <sub>2</sub> 154,231	—
エネルギー消費比率 A/B※ <sub>3</sub>	86	83	83	80	88	85

※<sub>1</sub> 最終エネルギー消費量について、2019年度は速報値。2020年度は2019年度と同等とする。

※<sub>2</sub> 実質県内総生産について、2019, 2020年度は推計値。

※<sub>3</sub> エネルギー消費比率とは、実質県内総生産当りのエネルギー消費量において、2012年を100とした場合の各年度の比率。

#### <進捗評価>

- ・エネルギー消費比率は、最終エネルギー消費量の減少により、これまで順調に減少してきた。
- ・しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度から実質県内総生産が減少すると予想されることから、増加が見込まれる。

＜参考＞新エネルギー等導入量の推移

項 目		2014 年度 (基準)		2019 年度		2020 年度		2021 年度 (目標)		
		設備容量 (万 kW)	原油換算 (万 kl)	設備容量 (万 kW)	原油換算 (万 kl)	設備容量 (万 kW)	原油換算 (万 kl)	設備容量 (万 kW)	原油換算 (万 kl)	
新エネルギー	太陽光発電	96.6	23.6	210.7	51.6	226.3	55.4	210.0	51.4	
	太陽熱利用	—	7.0	—	7.2	—	7.2	—	10.0	
	風力発電	14.2	6.3	19.1	8.5	21.3	9.5	20.0	8.6	
	バイオマス	発電	4.0	2.2	5.0	3.5	5.0	3.5	6.0	6.2
		熱利用	—	4.2	—	4.8	—	5.3	—	6.0
	中小水力発電	1.1	1.3	1.3	1.6	1.3	1.6	1.9	2.3	
	温泉熱発電	0.0004	0.0004	0.01	0.02	0.01	0.02	0.04	0.06	
高度利用	天然ガスコージェネレーション	40.8	35.8	49.5	43.9	49.5	43.9	85.0	74.6	
新エネルギー等計		—	80.5	—	121.0	—	126.4	—	159.1	

※2015 年度～2021 年度高度利用には燃料電池も含む

注) 原油換算は、再生可能エネルギー導入によって削減される、火力発電所の化石燃料消費量の原油換算量